

妖怪パワーで生まれ変わった水木しげるロード ～観光地における街路空間の再配分による高質空間の創出～

あ だち はる お
足 立 晴 夫*

1. はじめに

水木しげるロードは、鳥取県境港市のJR境港駅前から水木しげる記念館までの延長約800メートルの街路である。本市出身の漫画家水木しげる先生の描いた妖怪のブロンズ像を歩道内に設置するなどの整備を行い、平成5年に誕生した。

水木しげるロードリニューアル事業は、現在の賑わいを将来にわたり安定的なものにするため、好調が続く今こそ「次の一手」を打つ必要があるとの考えから、平成25年に市長が事業着手を宣言。平成26年1月から基本構想の策定に着手し、約4年半の歳月をかけて、これまでにない大規模なリニューアルが実現したものである。

2. リニューアルのポイント

リニューアルは、基本構想に始まり、基本計画・基本設計、交通社会実験の段階を踏む中で、様々な変更が加えられ、最終的に以下の内容となった。

1) 安全で快適な歩道

「人を大切にする道路」の理念のもと、対面2車線の車道を1車線の一方通行とし、さらに蛇行（スラローム）させることで変化のある広い歩道となった。一方通行化とスラローム、制限速度の変更により、車の交通量と速度が抑制され、安全で快適な歩行空間となった。

2) 妖怪ブロンズ像

水木しげるロードの最大の魅力である妖怪たちのブロンズ像は、リニューアルにより24体が新たに追加され、合計で177体となった。新たに追加され

たうち18体は、全国にスポンサーを公募し寄付で設置されたものである。大部分のブロンズ像は、種類や住みかなど、それぞれのゾーンに分類し、再配置を行った。

3) 夜の世界（演出照明）

今回のリニューアルの最大の目玉となるのが、照明演出である。合計416基、23種類の照明を駆使し、ブロンズ像や樹木のライトアップはもちろんのこと、妖怪の影絵やセンサーに反応する照明、音による仕掛けなど、水木しげるロード全体をテーマパークに見立てた様々な演出を施した。



写真-1 妖怪の影絵

4) バリアフリー

大きく広がった歩道に加え、交差点部分の車道を歩道の高さに揃えることで段差を解消し、車いすなどの利用者にも大変やさしい道路となった。また、新たに横断歩道上にもエスコートゾーン（点字ブロック）を設置した。その他、視覚障害者の方にも楽しんでいただけるよう、全てのブロンズ像に点字のプレートを設置した。

*境港市 建設部 水木しげるロードリニューアル推進課 課長補佐

0859-47-1026

5) 樹木

街路樹も一新した。今回もっとも多くの本数となるのが「シダレエンジュ」である。この木は、マメ科の落葉樹で、春から秋にかけて傘のように葉が生い茂り、非常に美しい樹形となる。また、落葉時には、枝が龍の爪のように見えることから別名「リュウノツメエンジュ」とも呼ばれており、妖怪のまちにふさわしい木である。

3. 工事及び工事期間中の取組み

工事は、平成29年5月に開始し、平成30年7月に完了した。上記のポイントに記述したとおり、これまでの水木しげるロードを完全に作り替える非常に大規模な工事であったことに加え、お客様を迎えながらの作業となるため、様々な面での工夫や配慮を行った。

1) ブロンズ像の移設

ブロンズ像は、177体のうち148体を一旦取り外し、再度新たな場所に設置することとなったが、取り外したブロンズ像は、お客様に見ていただくことが出来なくなり、観光地としての魅力が半減することが懸念された。そこで、工区を4つに分け、さらに北側と南側で工事期間をずらすことにより、一度にブロンズ像がなくならないよう配慮した。

2) 世界妖怪会議の開催

さらに、工事期間中にもお客様に楽しんでいただくために、駅前公園をブロンズ像の仮置き場として整備し、「世界妖怪会議」と称した特別展示を行った。多い時で80体以上のブロンズ像が集結し、大変好



写真-2 世界妖怪会議の様子

評をいただいた。

3) 安全協議会

工事は、道路、植栽、電気、水道などに分かれ、工区も細分化したため、実に20社を超える工事業者が参入した。そこで、発注者（境港市）と工事業者間の連絡調整を図り、円滑で安全に工事を進めていくことを目的に「水木しげるロードリニューアル事業関連工事安全衛生協議会」が組織された。

協議会では、毎月会合を開催し、工事に関すること以外にもキャラクターのイラストが入った工事看板の使用や、工事現場へのフラワーポットの設置、清掃活動など、様々な取組みが実施された。

その他にも、工事期間中には、関係者の協力により、冬季のイルミネーションや、フォトコンテストなども実施され、心配された工事期間中の集客の減少も最小限に止めることが出来た。



写真-3 工事看板等

4. 高質空間の創出

今回のリニューアル工事では、「落ち着いた昭和のイメージ」を念頭に、このイメージにマッチした自然素材を活用したいと考えていたが、800メートルに及ぶ水木しげるロード全体を整備するとなると莫大な費用が発生することとなる。そこで、イメージを壊さず安価に整備が出来るよう様々な工夫を行い、一部は、特別に開発した資材を使用した。

1) 歩道舗装

島根県松江市宍道町来待地区特産の「^{きまちいし}来待石」を粉状にしたものをコンクリートブロックの表面に練り込むことで、本物と風合いの違いはあるものの、素朴で落ち着いた雰囲気となった。

なお、歩道上のベンチやボラード（車止め）については、来待石の原石を使用している。

また、点字ブロックの色については、当初通常の黄色になる予定だったが、視覚障害者団体と協議を重ね、歩道舗装との輝度比を確保することを条件に濃いグレーが採用された。



写真-4 歩道と縁石

2) 車道舗装

「半たわみ性舗装」を採用することで、これまでの黒いアスファルト舗装とは異なるものとした。グレーを基調とし、石畳に見えるよう、カッターを入れることで、周囲の景観に自然に溶け込みつつ、高級感を出すことが出来た。

また、路側部分に白線は入れず、色を一段濃くすることで、景観を乱すことなく、自転車の走行にも配慮している。

3) 縁石

濃いグレーの玄武岩をイメージし、コンクリートで製作した。細かい孔が空いているのが特徴で、原石から型を取ることで、非常にリアルに再現することが出来、存在感のある縁石に仕上がった。

4) 手押しポンプ

昭和の雰囲気漂う手押しポンプを歩道上に2ヵ所設置した。単なるオブジェではなく、実際に水を出すことが出来、夏場は大変好評だった。

5. 演出照明について

前述したように、今回のリニューアル最大の目玉と言えるのが「演出照明」である。長年の懸案だったJR境港駅前へのホテル誘致が実現したこともあり、これまで通過型の観光地だった水木しげるロー

ドを滞在型の観光地に転換するため、夜の仕掛けに重点的に取り組む方針としていた。照明を担当したのは、これまで国内外で数多くの実績がある照明デザイナーであり、水木プロダクションとも協議を重ねる中で、世界でここにしかないオンリーワンの演出照明が出来上がったものと自負している。

6. お客様や地元の反応

去る7月14日にリニューアル記念式典、記念パレードを盛大に開催した。

この日を皮切りに近年例がないほどのお客様が水木しげるロードに押し寄せ、9月には、リニューアルオープン後の入込客数が100万人を超え、年間でも200万人を突破した。これは昨年より3ヵ月早い200万人達成であり、特に夏休み期間中は、地元団体が30年ぶりに復活させた「土曜夜市」との相乗効果で、年に一度の祭りかと思うほどの賑わいが続いた。

沿道の商店においても品切れが続出し、近年にない売り上げを記録したとの声も聞かれた。



写真-5 夜間に賑わう水木しげるロード

7. おわりに

今回のリニューアルをきっかけとして「土曜夜市」を始めとする地元有志による様々なイベントが開催されている。これまでになかった新しい動きであり、今後も大いに期待が持てる状況となっている。行政としてもこうした取組みに対して、今後とも十分なバックアップを行い、将来にわたる賑わいを官民協働で作りに出していきたいと考えている。